

科目区分	専門基礎分野	授業科目	病理学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 病気の成り立ちや人体に起こる病的な現象を理解できる。 目標: 1 疾病を引き起こす内因・外因を理解できる。 2 臓器、組織、細胞等にかかる構造と機能の変化を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 病理像	29	1 病理学とは 2 疾病の様々な原因 1) 疾病を引き起こす内的要因 2) 疾病を引き起こす外的要因 3) 公害病と医原病 3 病理診断(組織診・細胞診)、病理解剖の概要 4 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝子異常 2) 染色体異常 5 代謝障害 1) 細胞の障害と適応 (1) 萎縮 (2) 肥大と過形成 (3) 化生 (4) 壊死とアポトーシス (5) 変性 2) 物質沈着 3) 脂質代謝障害 4) タンパク質代謝障害 5) 糖質代謝障害 6) その他の代謝障害 6 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 局所性の循環障害 3) 全身性の循環障害 4) リンパの循環障害 7 炎症と免疫、膠原病 1) 炎症 2) 免疫 3) アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 4) 移植と主要組織結合複合体 8 感染症 1) 病原体と感染症 2) 宿主の防衛機制 3) 主な病原体と感染症 9 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生病理 3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10 老化と死 1) 加齢に伴う諸臓器の変化	

		2) 個体の死
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病理学
参考資料		
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備 考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	治療論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 疾病に対する診断と治療についての基礎的知識を習得する。 目標: 1 異常状態を判断するための診断過程を理解できる。 2 治療法の種類と治療における生体の反応について理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 治療法の概要	2	1 疾病の診断の基礎 1) 診断過程 2 疾病の治療 1) 治療法の種類と概要(生体の反応を含む) (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 運動療法 (4) リハビリテーション療法 (5) 臓器移植 (6) 輸液療法・輸血	
2 麻酔法	8	1 麻酔法の基礎 2 全身麻酔と生体反応 1) 全身麻酔の深度 2) 吸入麻酔 3) 静脈麻酔 4) バランス麻酔 5) 全身麻酔中・麻酔後の合併症 3 局所麻酔と生体反応 1) 浸潤麻酔 2) 表面麻酔 3) 脊椎くも膜下腔麻酔(腰椎麻酔) 4) 硬膜外麻酔 5) 伝達麻酔	
3 手術療法	6	1 外科的治療と適応 1) 手術療法とは 2) 手術療法 2 手術侵襲に対する生体反応とその機序 1) 手術侵襲とは 2) 術後の生体反応の推移 3 手術経過とその管理 1) 術前・術中・術後の管理 (術後合併症の発生要因・予防・治療を含む) (1) 循環管理 (2) 呼吸器管理 (3) 消化器管理 (4) 術後感染症	
4 がん薬物療法(化学療法)	6	1 がん薬物療法(化学療法)の基礎 (1) がん薬物療法(化学療法)の原理と作用機序 ア 細胞障害性抗がん薬 イ 分子標的薬 2 がん薬物療法(化学療法)による副反応(有害事象)と合併症 3 がん薬物療法(化学療法)の標準治療計画(レジメン) 4 抗がん薬を取り扱う者の曝露対策	

5 放射線療法	7	1 放射線の種類と特徴 2 放射線診断 1) X線診断 2) 血管造影 3) MRI(磁気共鳴画像診断) 4) RI(ラジオアイソトープ) 5) PET(ポジトロン断層法) 3 放射線療法の適応と流れ 4 単独療法と集学的治療 5 内照射と外照射 6 有害事象への対策 1) 放射線による障害と防護 2) 放射線療法に伴う反応と障害
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		メヂカルフレンド社 治療論概説(単元1) 医学書院 臨床外科看護総論(単元2・3) 医学書院 基礎看護学〔4〕臨床看護総論(単元4) 医学書院 臨床放射線医学(単元5)
参考資料		
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備 考		